

あとがき

本書は、2014年3月8日に大阪大学で開催したワークショップ「20世紀中国政治史像の再構築 学際的・史料学的探求と対話の試み」(主催：NIHU 現代中国研究・東洋文庫拠点政治史資料研究会，共催：大阪大学政治史研究会，大阪大学未来研究イニシアティブ支援事業 [21世紀課題群と中国])の内容について，録音原稿を整理(改訂)したものである。

中国近現代政治史に関わる二つの著作 西村成雄『20世紀中国政治史研究』(放送大学教育振興会2011)と浅野亮・川井悟編『概説近現代中国政治史』(ミネルヴァ書房2012)の著者・编者をお招きし，政治史の視角と方法と，それを担保する史資料の意味について討論を行った。

21世紀の東アジアにおいて，とりわけ近年の日中・日韓の政府・メディアの動向が示すように，「歴史問題」は極めて重要ではあるが容易に処方を見出しえない，デリケートで深刻な課題あることに多言を要さない。ならば今日の東アジアで有意な対話を実現し豊かな将来像を構想するために，「歴史」をどのように取り扱い再構築しうるのかについての論点整理とブレインストーミングが緊要な要請であると考えた。

今回の企画はこうした課題認識をふまえてのものであったが，三人の討論者による政治史の描き方をめぐる個性豊かな論点提示と討論では，今後私たちがそれぞれの思考を深めるためのいくつかの示唆・ヒントが示された。これらを東洋文庫政治史資料研究班，「21世紀課題群と中国」(大阪大学未来研究イニシアティブ)のそれぞれのミッションから捉えなおすことによって，研究プロジェクトとしての具体化を図りたい。(田中仁)